



# あらゆる体験の濃度を高める「視覚の再定義」 ライブの臨場感と映像コンテンツが 「網膜投影」で重なる興奮



## 「RETISSA® Display II」の技術が実現する「視覚の再定義」

ディスプレイに表示するのではなく、レーザーで網膜に直接投影する「ビシリウムテクノロジー」により、視力に依存しないリアルな視覚世界を実現した「RETISSA® Display II」。

### 小型・軽量化を実現した「RETISSA® Display II」

QDレーザーが創業から独自に培ってきた光学技術を活用し、内蔵プロジェクタを軽量小型化し、フレーム内部に搭載することが可能となったため、違和感のないデザイン性を実現。突起部分がほとんどなく、重量も約50gと非常に軽い。外見上の違和感や重さによる疲れなどの課題を改善し、快適なかけ心地を実現している。



### カメラやタッチパネルなど組み合わせ次第でユーティリティ向上

追加ユニットを接続することでさらにユーティリティを広げるべく、開発中。フレームに取り付けるカメラ、ウェアラブルマイクとの組み合わせ音声を取り込み、文字起こしを映し出す音声認識・翻訳機能。そして手元で映像を調節できるタッチパネル。目的に合わせてガジェットを組み合わせ、多様なニーズに応えられるよう進化を続ける。

### 「見えにくかった」人たちの目に光をロービジョンエイド

今後の活躍の場として有力なのが、医療や福祉といった分野だ。角膜や水晶体に因るロービジョンの場合など、網膜が健全であれば視力を回復できる可能性がある。効果を確める臨床試験も終わり、医療機器承認のために最終段階にあるという。手術の必要がないので負担も少なく、生活の自立にも寄与するなど、社会的な役割を担うデバイスとして期待される。



## CEATEC 2019に「網膜投影」体験ブースが出現!

あらゆる産業・業種による「CPS/IoT」と「共創」をテーマとしたビジネス創出のための人と技術・情報が一堂に会する「CEATEC 2019」が開催され、QDレーザーは発表したばかりの「RETISSA® Display II」を携えて参加。実機体験型のブースは、初日から多くの入場者たちで賑わった。同社では、2020年2月には「ウェアラブルEXPO」に出演するなど、多くの人に「網膜投影」の技術を体験してもらう機会を増やしていく予定だ。

カメラ機能や映像視聴・フレームの体験コーナーは、特に若年層の入場者の目を引いた



### 切り拓く「網膜投影」 新たな世界を

「RETISSA® Display II」最大の強みは、レーザーで映像や情報を網膜に直接投影する技術「ビシリウムテクノロジー」だ。網膜投影自体は新しい技術ではないが、小型化したレーザーディスプレイを実装したデバイスが一般販売されることには大きな意味を持つ。

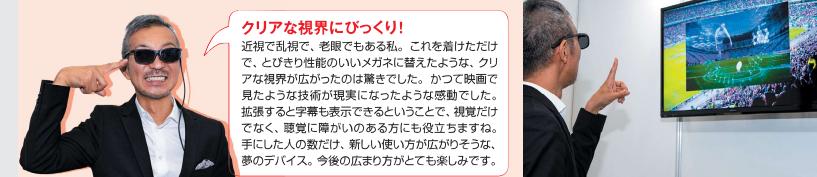
従来のスマートグラスは、メガネを通して現実世界とメガネ内部の情報コンテンツの両方にピントを合わせるのが困難だったが、「ビシリウムテクノロジー」は、網膜に直接アクセスすることでこの課題をクリアしている。見えるためにピント調節をする必要がないので、疲れにくいというメリットもある。

AIRは、活躍の場を逃さない。インバウンド需要に合わせ、外国人が日本文化を体験する際に活用することもできる。最終的に目指すのは、投影部分をさらに小型化し、普段かけているメガネに装着できるようにすることだという。実現すれば「網膜投影」によるAIRはより実用性を増すに迷いない。

## AR×SPORTS & CULTURE



### 日経XTREND EXPO 2019 品田英雄が「網膜投影」をチェック!



#### クリアな視界にびっくり!

近視で乱視で、老眼でもある私。これで前だけだけではなく性能のいいメガネに替えたような、クリアな視界が広がったのは驚きでした。かつて映画で見たような技術が現実になったような感動でした。抜擢すると字幕も表示できるといふことで、視覚だけでなく、聴覚も障がいのある方にも役立ちますね。手には人の数だけ、新しい使い方が広がるぞうな、夢のデバイス。今後の広まり方がとても楽しみです。

技術と通信の進歩で活躍の場に広かりを見せるAIR(拡張現実)。レーザーによる網膜投影という最新技術を搭載し、次世代AIRの大本命ともいわれるアイウェア型デバイス「RETISSA® Display II」に注目した。

### 「ARが視覚を通して「体験」を飛躍させる